

2022春闘コンテスト 作品大募集

テーマ「2022春闘」「労働組合」
川柳の部 / 写真・動画の部

募集期間 2月1日（火）～3月4日（金）まで

●応募対象
組合員・家族、JR東日本（グループ会社を含む）の全社員

●応募方法
応募専用アドレス jrtueast@gmail.com
もしくは専用 QR コードから応募してください



部門ごとに優秀賞のほか12作品、計24作品に各地方の特産品を贈呈！

詳しくは東日本ユニオンの役員まで

明るく楽しく春闘に参加しませんか！ たくさんの応募をお待ちしております！

庄内統括センターについて提案を受ける ～検討中とする項目を多数残す～

庄内統括センターにおける柔軟な働き方の実現について 提案団体交渉

新潟地本は12月21日に団体交渉を行い、新潟支社より「庄内統括センターにおける柔軟な働き方の実現について」の提案を受けました。

庄内エリアにおいて、系統や事業分野を越えた柔軟な働き方を実現するため、酒田駅（地区センター含む）、鶴岡駅及び酒田運輸区を統合し、3月12日に庄内統括センターを設置するとの案が示されました。

支社側は、施策実施日に
行うダイヤ改正により、村
上・鶴岡間のワンマン運
転拡大による車掌の行路
数減少、検修業務の廃止に
より助役、検修、技管の3
名分の減が生じるほか、酒
田駅へのアシストマルス
導入による減が生じると
しました。

一方で、提案した施策その
ものによる要員増減は
無く、3つの職場が1つに
なることで管理者の増減
は生じるが、統括センター
としては企画業務の業務
量に比べて元の体制より
も必要要員数は増えて
いくと説明しました。

◆ 企画業務に関して質す
と支社側は、営業の駅社員
と教育計画や、運輸における
いくと説明しました。

◆ 最低限の人数であり、企画
業務は作業ダイヤという
形で算出し難いため、新た
に移管される業務に関し
ては含まないとした。

◆ その上で、例えば余力で
1人分をプラスするので
あれば、1人1工分の業務量
を1人が専属で担うので
はなく複数人で分け合う
形となるために、実際には
それ以上の人数が配置さ
れる形になるとしました。

業務を調整して企画業
務を担う社員の人数を生
み出すのか質すと支社側
は、まずは鉄道オペレー
ションを担える体制とし
て示したものでありそこま
では考えていないとして、
支社から移管する業務に
ついてはそれに応じて職
場の余力を付けていき
たいとしました。



◆ 業務の融合に対する考
えを質すと、発足時にどの
業務を融合させていくの
かは検討しているさなか
であるとしました。乗務と
それ以外の仕事の割合に
ついては、発足当初はまず
は大半が乗務になると考
えられ、1日の中で
乗務と駅業務という形
ではなく、日単位、又は月
単位での指定を考えてい
るとしました。

◆ 対外的な役割があるた
め、統括センター発足後
も酒田駅・鶴岡駅の看板はそ
のままとし、酒田運輸区に
ついては看板を外すが、部
内での名称については検
討中であるとしました。

◆ 社員周知について考
えを質すと、時期は調整中
としながらも1月のできる
だけ早い時期に説明会を
行いたいとしました。

◆ 交渉団は、今回の提案に
より以前よりも明確にな
った部分がある一方で、検
討中とする内容も多いこ
とから、現場の実態を踏ま
えた検討を求めると共に、
労働環境などについても
労働組合として議論して
いくことを述べて交渉を
終えました。

新潟支社・庄内統括センターにおける 現業機関における柔軟な働き方の実現とは？

◆ 新潟地本は12月20日、
申6号「新潟支社の現業機
関における柔軟な働き方
の実現について」に対する
申し入れの団体交渉を行
いました。

◆ 施策実施の目的を質す
と支社側は、会社を取り巻
く環境の変化を踏まえて
多様な働き方を実現して
行くために、一つの担務の

◆ 枠の中で硬直した作業ダ
イヤに縛られた働き方を
変えることが必要である
との考えを示しました。

◆ 酒田エリア以外での実
施の計画について質すと、
再来年度あたりまでには
方向性を示していく必要
があるとの考えを示した。

◆ 出札、事務、検査、乗
務員などの業務、担務につ
いて、庄内統括センター設
置以降どのように運営す
るのかを質しました。

◆ 支社側は、1人が2つ以
上の担務を行えるように
していくとして、基本的
には現在メインで担当して
いる業務・担務を軸に他の
業務に幅を広げていくこ
とになるとしました。

◆ 2つ以上の担務につい
て、社員の希望によるの
かと、把握はするが希
望していない担務を担う
こともあるとしました。

◆ 社員一人ひとりの成長
意欲に応えるとした目的
との関係で指摘すると、管
理者と社員とのコミュニ
ケーションを図りながら
可能な限り近づけること
は考えていくとしました。

◆ 統括センターになっ
てもジョブローテーション
の考え方は変わらないと
しました。他の仕事で一本
立ちして一定程度従事
できるようにすれば担務
変更と捉えられるとしつ
つも、考え方については支
社内で検討している段階
であるとしました。

◆ 施策実施により、安全
がどのように向上するの
かを問うと、様々な担務
における安全の視点を持
つことと対応能力が向上
するとの考えを示しまし
た。

◆ 一方で、業務に精通し
経験を基にした技量・感
性を伝える社員の育成も
鉄道の安全運行に必要
であるとの考えを示しま
した。

地本会計監査を終了

◆ 新潟地本は1月25日16
時30分より、新潟地本事務
所において、2021年度
一般会計の会計監査を
実施しました。

◆ 対象となった会計期間
は上半期分の2021年
5月1日より10月31日
までです。

◆ 監査の結果、会計規則
に準じて処理されており、帳
票類もよく整理されてい
るとして、指摘事項は特
にありませんでした。

◆ 今後も大切な組合費を
厳正に管理・執行してい
きます。